

## 多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸要望活動について

多摩地域都市モノレール等建設促進協議会は、「多摩都市モノレール延伸の促進に関する要望」を取りまとめ、下記のとおり要望しましたので、お知らせします。

### 記

- 1 要望日 平成29年10月24日（火）
- 2 要望先 (1) 国土交通大臣  
(三鷹・立川間立体化複々線促進協議会との合同による要望)  
(2) 東京都知事  
(三鷹・立川間立体化複々線促進協議会との合同による要望)
- 3 要望内容 別紙1及び別紙2のとおり
- 4 要望者 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会  
(会長：立川市長、副会長：八王子市長、町田市長及び武蔵村山市長)



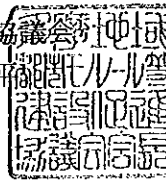
複促協発第9号  
モノ促協発第10号  
平成29年10月24日

国土交通大臣 石井 啓一 殿

三鷹・立川間立体化複々線促進協議会  
会長 立川市長 清水 庄平



多摩地域都市モノレール等建設促進協議会  
会長 立川市長 清水 庄平



ＪＲ中央線三鷹駅立川駅間複々線化事業及び  
多摩都市モノレール延伸の促進に関する要望

日頃から両協議会に対しご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ＪＲ中央線三鷹駅立川駅間連続立体交差事業は、事業完了により18か所のすべての踏切が除却され、交通渋滞や踏切事故が解消するなど大きな事業効果が得られております。

また、多摩都市モノレールは、1日平均の乗客数が14万1千人を超え、地域市民の足として定着してきたことは、大変喜ばしいことと感謝申し上げます。

多摩地域は、東京都長期ビジョンにおいても400万人を超える都民の生活の場であるとともに、多様な産業の集積等により東京の発展を支える重要な地域であります。また、多摩地域の各市町村では、少子高齢社会における定住促進や観光振興等に取り組んでおり、公共交通の充実、これらの施策に必須のものとなっております。

しかし多摩地域においては、まちづくりの骨格をなす道路や鉄道網などのインフラ整備が区部に比べ著しく遅れており、今後の持続的な発展のためには、鉄道不便地域の解消のほか、青梅線、五日市線の輸送力増強や都心へのアクセス時間の短縮、定時性の向上などに向けた取組が必須となっております。

平成28年4月、交通政策審議会は、国からの諮問に対して、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申を策定しており、その中で地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクトとして、中央線の複々線化、多摩都市モノレールの延伸が挙げられております。

そこで、下記の事項につきまして、要望いたします。

記

1. 　ＪＲ中央線三鷹駅立川駅間複々線化事業は、都市計画決定されているが整備未着手となっており、混雑緩和、速達性の向上といった利用者の利便性向上にとどまらず、鉄道ネットワークの信頼性・安定性の向上、多摩地域の振興や都市間における連携強化にも資するなど大きな効果が見込まれる事業である。多額の費用や採算性の確保などの課題があるが、青梅線立川駅西立川駅間の三線高架化事業とともに、複々線化事業の実現に向けて、法整備や費用負担のあり方を含めた検討を進めること。
2. 　多摩都市モノレール事業は、多摩自立都市圏の形成を図るうえで重要な公共交通網の根幹をなすものであることから、箱根ヶ崎方面、町田方面、八王子方面の延伸整備の実現に向けて、インフラ外事業費に対する補助制度の一層の拡充や財源確保を含めた検討を進めること。

以上



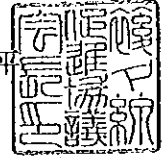
複 促 協 発 第 10 号  
 モ ノ 促 協 発 第 12 号  
 平 成 29 年 10 月 24 日

東京都知事

小 池 百 合 子 殿

三鷹・立川間立体化複々線促進協議会

会長 立川市長 清水 庄 平



多摩地域都市モノレール等建設促進協議会

会長 立川市長 清水 庄 平



J R 中央線三鷹駅立川駅間複々線化事業及び  
 多摩都市モノレール延伸の促進に関する要望

日頃から両協議会に対し御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

多摩地域は、420 万人を超える都民の生活の場であるとともに、多様な産業の集積等により東京の発展を支える重要な地域であります。また、多摩地域の各市町村では、少子高齢社会における定住促進や観光振興等に取り組んでおり、公共交通の充実は、これらの施策に必須のものとなっております。

東京は、2020 年のオリンピック・パラリンピックの開催都市として、より質の高い都市鉄道ネットワークの機能強化に積極的に取り組むことが重要とされておりますが、多摩地域は区部に比べ、交通網などのインフラ整備が著しく遅れており、今後の持続的な発展のためには、鉄道不便地域の解消や交通利便性の更なる向上が必要であります。

東京都におかれましては、平成 27 年 7 月に、「広域交通ネットワーク計画について」を取りまとめられ、これを踏まえて交通政策審議会は、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申を平成 28 年 4 月に策定しています。

答申の中には、地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクトとして、中央線の複々線化、多摩都市モノレールの延伸が挙げられているところです。そこで、下記の事項につきまして、要望いたします。

#### 記

1. J R 中央線三鷹駅立川駅間複々線化事業は、都市計画決定されているが整備未着手となっており、混雑緩和、速達性の向上といった利用者の利便性向上にとどまらず、鉄道ネットワークの信頼性・安定性の向上、多摩地域の振興や都市間における連携強化にも資するなど大きな効果が見込まれる事業である。多額の費用や採算性の確保などの課題があるが、青梅線立川駅西立川駅間の三線高架化事業と合わせ、複々線化事業の実現に向けて、法整備や費用負担のあり方を含め、国に強力に働きかけるとともに、事業スキームを含めた事業計画の検討を進めること。
2. 多摩都市モノレール事業は、多摩自立都市圏の形成を図る上で重要な公共交通網の根幹をなすとともに、沿線のまちづくりを促し、各拠点間の連携や交流に寄与するものであり、更なる交通ネットワークを構築するため、箱根ヶ崎方面、町田方面、八王子方面の延伸の実現に向けて、事業化に向けた具体的な調整、事業計画の検討を進めること。

以上